

Oct. 23. 1958). Kyushu: Pref. Oita, Mt. Kuzyu, (K. Ito and K. Yen, Oct. 24. 1958).

var. *Pai-chi* Kimura, Hata & Yen. var. nov. Folia supra ad nervos minute puberula, cetera glaberrima subtus glaberrima, segmentis ultimis anguste ovato-ellipticis. Umbella 20-30-radiata. Fructus 5-8 mm. longus 4-6 mm. latus; mericarpium puberulum.

Nom. Jap. Kara-byakushi (nov.).

Hab. Zhejian-Sheng: Hanzhou, cult. (K. Kimura, 1941). Jian-quiao, cult. (G. Pan, 5. Oct. 1958). Sichun-Sheng: Suining, cult. (G. Pan, Jul. 10. 1959). Nanchuan-Xian, cult. (G. Pan, Oct. 15. 1959). Hubei-Sheng: Sui-Xian, cult. (G. Pan, Jun. 13. 1959). Badong-Xian, cult. (G. Pan, Jul. 15. 1959). Hunan-Sheng: Fualong: cult. (G. Pan, Aug. 20. 1959)-Type in Herb. Univ. Kyoto.

○タチゲヒカゲミズ (原 寛) Hiroshi HARA: On *Parietaria* of Japan

ヒカゲミズ (*Parietaria micrantha* Ledebour) は日本では産地があまり知られていないものの一つである。しかし種としての分布は広くウラル附近から東へシベリア南部、西南アジア、中央アジア、ヒマラヤ、蒙古、支那、満州、朝鮮などに産し、草状や毛の状態などにかんがりの変異が見られる。また濠州、ニュージーランド、マレーシアの一部、南米、アフリカなどに産する *P. debilis* Forster とは少し異なるが別種であるか否かは疑問である。初めてヒカゲミズの和名をあたえられた下野日光産のものでは、茎の先端部を除き、茎や葉柄には短い毛が密に生えこの毛は概ね下曲している。*P. micrantha* の基準産地であるアルタイのものも短い毛が生えていると記載されているし、満支産の標本もこの形である。しかし昨年 8 月信濃南佐久郡八千穂村うその口で佐藤邦雄氏が採集されたものは、茎や葉柄、花序など全株に長いほとんど立つた軟毛が密に生えている。この形は八ヶ岳西岳 (林弥栄 1948) にも産し、木曽御岳や豊前英彦山のものもこれに近い。なお面白いことにはこれと同じ立毛形は朝鮮 (咸北、咸南、平南など) にも産し、故中井博士はこれに気付かれて標本上に記されていたが発表はされなかつた。また朝鮮産のツルミズ (*P. coreana* Nakai) というものはこの形の生育のよい大形の個体につけられたものであると思う。この形はヒカゲミズと同一種であるが、一応変種として区別し学名を次のように改めたい。和名ツルミズは適切な名でなく、またヤマミズの異名として用いられたこともあるので改め、新たにタチゲヒカゲミズと呼ぶ。

Parietaria micrantha Ledebour

var. **coreana** (Nakai) Hara, stat. nov.

P. coreana Nakai in Bot. Mag. Tokyo 33: 46 (1919).

Hab. Honshu. Prov. Shinano: Usonokuchi in Yachiho-mura (K. Sata, no. 1026, Aug. 13, 1959).

This variety having hairy stems, petioles, and inflorescences with long soft spreading hairs is a new record in Honshu.